

七戸町景観計画

令和2年9月

七戸町

— 目 次 —

第1章 景観計画の基本的事項.....	1
1. 計画策定の目的.....	1
2. 計画の位置付け.....	2
3. 本計画の区域.....	2
第2章 七戸町の景観形成の理念.....	3
1. 七戸町の景観特性.....	3
(1) 七戸町の概況.....	3
(2) 七戸町の景観の特性と課題.....	6
2. 景観形成の基本理念.....	12
3. 景観形成の方針.....	13
第3章 景観法に基づく方策.....	15
1. 区域区分の考え方.....	15
2. 良好な景観の形成に係る行為の制限に関する事項.....	17
(1) 手続きの仕組み.....	17
(2) 一般区域.....	19
(3) 景観形成重点区域（史跡二ツ森貝塚の周辺）.....	23
3. 屋外広告物の表示及び掲出する物件に関する行為の制限.....	30
(1) 一般区域.....	30
(2) 景観形成重点区域.....	30
4. 景観重要建造物・樹木の指定の方針.....	31
(1) 景観重要建造物の指定の方針.....	31
(2) 景観重要樹木の指定の方針.....	31
5. 景観重要公共施設等の整備に関する事項.....	32
第4章 良好な景観の形成に向けた推進方策.....	33
1. 協働のまちづくり.....	33
(1) 町民の役割.....	33
(2) 事業者等の役割.....	33
(3) 町の責務.....	33
2. 計画の推進体制.....	34

第1章 景観計画の基本的事項

1. 計画策定の目的

七戸町は、八甲田連峰、高瀬川等の河川や田園、牧場等が広がり、さらには史跡二ツ森貝塚、史跡七戸城跡周辺における街並み、奥州街道の松並木等の歴史的な資源が点在し、豊かな自然と永い歴史を感じさせます。こうした七戸町の景観は、先人たちが今日まで歴史や文化を培い、自然を永きにわたって守り続けることで、連綿と受け継がれてきました。

また、東北新幹線七戸十和田駅周辺は、七戸町の新しい玄関口として、良好な景観を形成する機運が高まっています。世界文化遺産への登録に関する取組から、縄文文化への関心の高まりとともに、史跡二ツ森貝塚に対する良好な景観の形成への機運が高まっています。

このことから、七戸町の良好な景観を保全し、より良いものとして次世代へ引き継ぐため、七戸町景観計画（以下「本計画」という。）を策定することとしました。本計画によって、七戸町の景観形成の基本的な考え方を明らかにし、町民と事業者等、町が共有することで、自然と人の営みが調和した良好な景観の形成を推進し、「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の実現を目指します。

2. 計画の位置付け

本計画は、景観法（以下「法」という。）第8条に基づく「良好な景観の形成を図るための計画」として定めるものであり、七戸町における景観形成の指針となるものです。

本計画と、「第2次七戸町長期総合計画」「七戸町都市計画マスタープラン」等の上位・関連計画との整合を図りながら、七戸町の良好な景観の形成に取り組んでいきます。

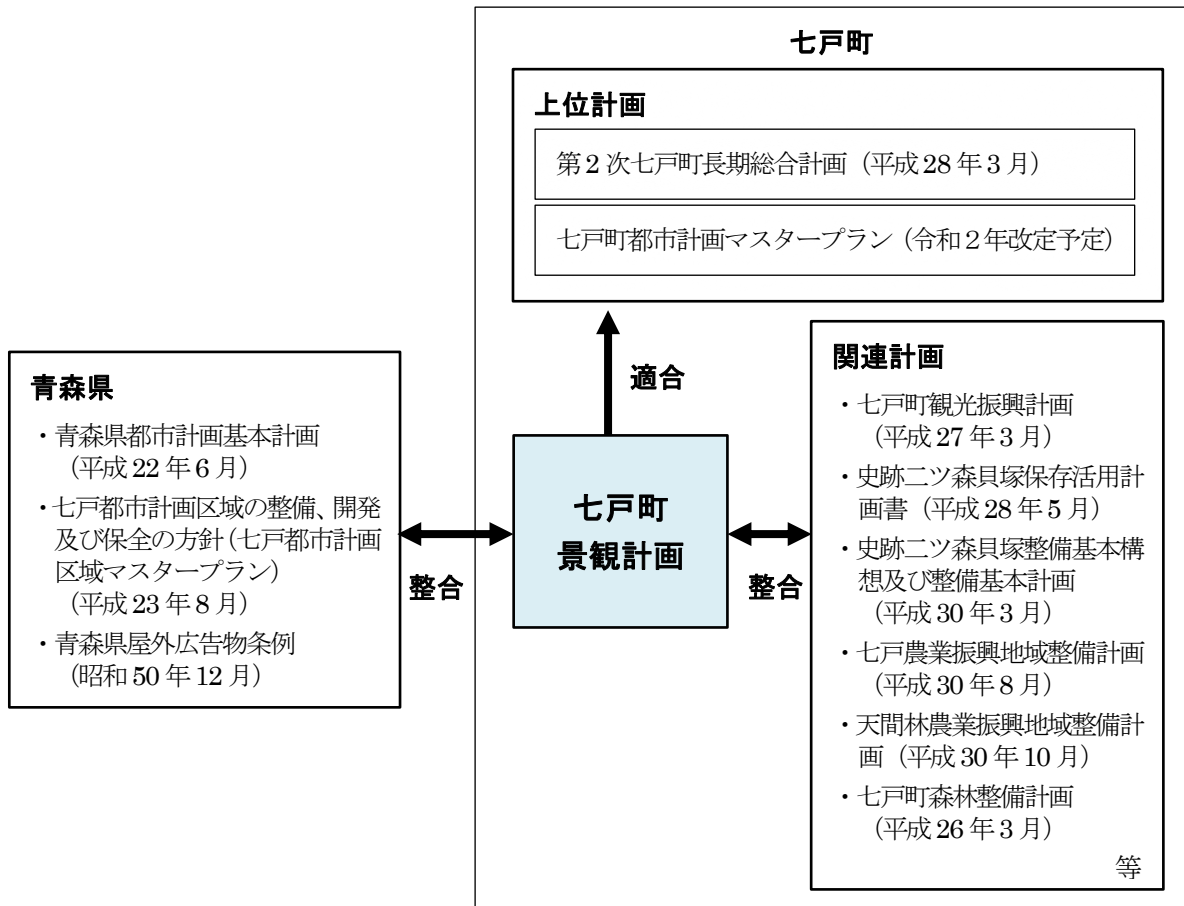


図 七戸町景観計画の位置づけ

3. 本計画の区域（法第8条第2項第1号関係）

本計画の区域は、七戸町全域とします。

第2章 七戸町の景観形成の理念

1. 七戸町の景観特性

(1) 七戸町の概況

1) 位置

七戸町は、青森県の東部の上十三地域のほぼ中心部に位置し、東北町、青森市、十和田市、平内町に接する内陸部の町です。平成17年3月31日に旧七戸町と旧天間林村が合併して現在の町域となっており、面積は337.23km²です。

町内を国道4号と国道394号が十字に交差し、町内の主な交通路となっています。みちのく有料道路で青森市とつながっており、県道が放射状に近隣市町村に延びています。また、ほぼ中央部に東北新幹線七戸十和田駅が位置するほか、東部を青い森鉄道が通り、広域交通に恵まれた町です。

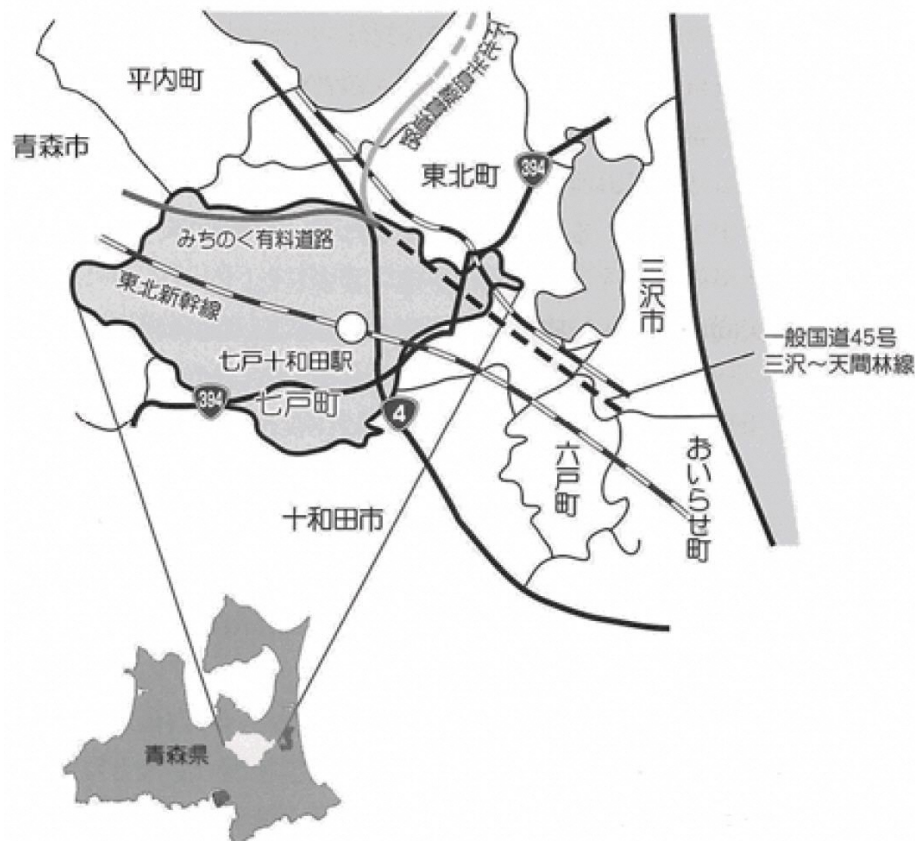


図 七戸町の位置

出典：七戸町都市計画マスタープラン

2) 地形

七戸町の西部では、標高1,000mを超える八甲田連峰が広大な林野を形成しています。東部には丘陵が広がり、八幡岳を水源とする河川等が町内を東西に流れ、河川流域には広大な水田地帯が形成されています。

3) 気候

七戸町の気候は一年を通じて変化が激しく、なかでも6～7月には霧雨を伴ったヤマセ（偏東風）のため気温の低い状態が続き、夏は短く、12月から3月にかけては北西の強い季節風が吹き、曇天、降雪の日が多くなります。山間部においては、最深積雪が2mを超える場所もあり、内陸型の豪雪地帯となっています。

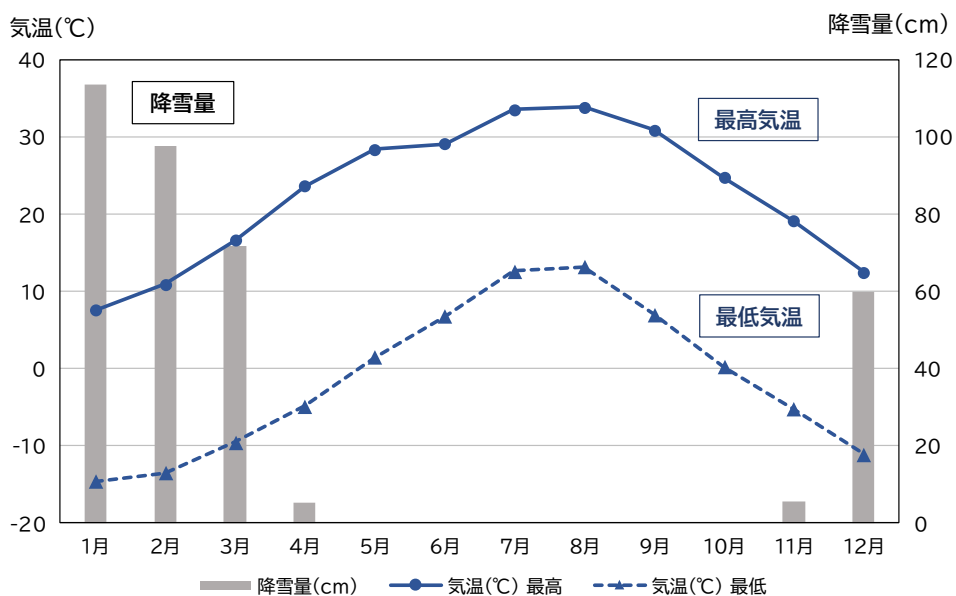


図 降雪量、気温（2010～2019年の平均値）

資料：気象庁十和田観測所データ

4) 土地利用現況

七戸町の西側一帯は八甲田連峰の東麓であり、町内の半分以上を山林が占めています。東側の丘陵地では、水田、畑等の農地が多く見られます。農地の中に集落が点在しているほか、国道4号と国道394号の結節部に古くから城下町として発展してきた商業・業務地と住宅地が形成されています。東北新幹線七戸十和田駅周辺では新しい市街地の形成が進んでいます。

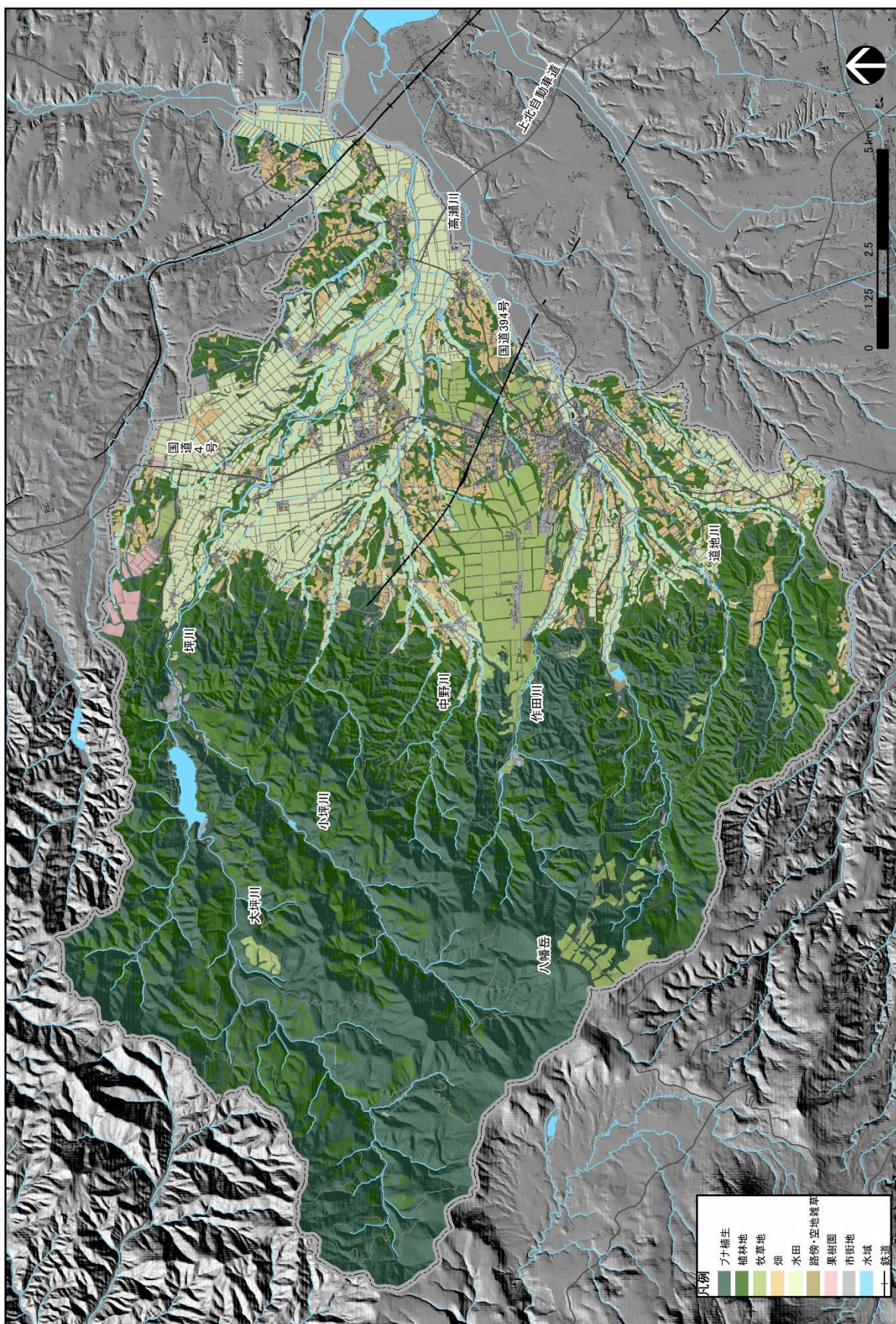


図 七戸町の土地利用

資料：環境省による第6回・第7回自然環境保全基礎調査植生調査を基に作成

(2) 七戸町の景観の特性と課題

1) 自然的景観

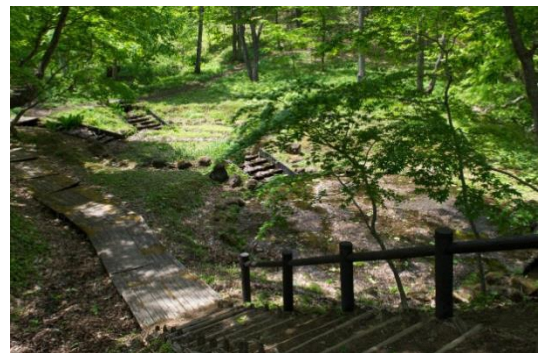
八甲田連峰を背景に水田・河川等が広がり、豊かな自然に包まれた七戸町の景観の基盤となっています。

■ 山地

西部に広がる八甲田連峰は、町内の多くの場所から見ることができ、町民にとって親しみのある景観となっています。山地内には、森林公園や東八甲田家族旅行村等の豊かな自然環境を活かした観光スポットがあり、緑の中のレクリエーションが楽しまれています。



八甲田連峰
(出典：七戸町町勢要覧 2020)



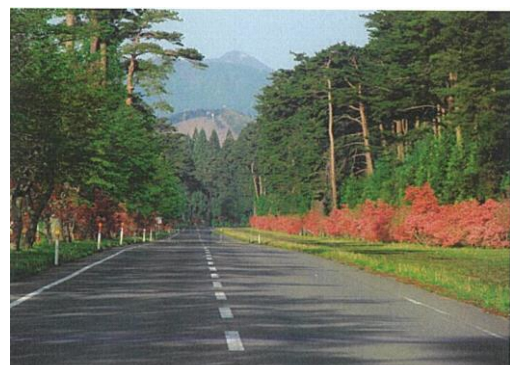
東八甲田家族旅行村
(出典：たびくら七戸)

■ 農地

山麓から延びる丘陵は高低差が少なく、水田等の広大な農地や牧場が形成されています。町内の至るところで、農地が手前に広がり、背景には八甲田連峰がそびえる雄大な田園風景が望めます。幹線道路の沿線では、馬や牛が放牧されている様子や、七戸町の花であるつつじが並ぶ彩りある景観が展開し、七戸らしさを演出しています。



八甲田連峰と丘陵からなる田園風景
(出典：七戸町町勢要覧 2020)



つつじロード

■ 河川

七戸町では、八幡岳に水源をもつ高瀬川、坪川をはじめとする河川が町内を東西に横断しています。台地部や低地部では緑に覆われ人工物が少ない自然護岸が多く見られ、水と緑が調和した潤いある河川景観が展開しています。



自然護岸と河畔林



七戸川

自然的景観における良好な景観の形成に関する課題

- ・ 緑と水による豊かな自然環境が形成する景観を保全するため、山地や農地を適切に維持管理していくことが必要です。
- ・ 建設や開発等を行う際は、人工物が周囲の自然と調和し、また八甲田連峰など七戸町を象徴する眺望を妨げないように配慮することが必要です。

2) 歴史的景観

町内の遺跡や歴史的建造物、道路等や、集落に息づく祭祀や伝統芸能は、かつての人々の暮らしぶりを私たちに伝えるとともに、今日まで地域の結束の礎となっています。

■ 様々な歴史資源

七戸町は、県内最大の貝塚を伴う集落遺跡である二ツ森貝塚と、中世から近世にかけて南部氏の北方最前線基地であった七戸城跡の二つの国指定史跡を有しています。

町内の集落では、先史時代からの人々の長い営みの中で、脈々と受け継がれてきた神楽や親孝行踊り等の伝統芸能があります。毎年9月に行われる「しちのへ秋まつり」では、「絵馬型風流山車」と呼ばれる特徴ある形状の山車が市街を勇壮に練り歩く様子が見られます。

また、奥州街道の松並木や七戸商店街の旧街道、蒼前平一里塚等、七戸町が古くから交通の要衝であったことを示す資源が各所で見られます。



二ツ森貝塚（国史跡）



天王神社の「天王つつじまつり」



親孝行踊り（町指定無形民俗文化財）

（出典：七戸町町勢要覧 2015）



蒼前平一里塚（県史跡）

（出典：七戸町町勢要覧 2015）

歴史的景観における良好な景観の形成に関する課題

- ・住民や来訪者に、かつての人々の暮らしや行き交う様子をより一層伝えることができるよう、歴史資源それぞれの歴史的背景を踏まえた周辺環境の整備が必要です。
- ・史跡二ツ森貝塚は、七戸町が世界に誇る遺跡であり、その周辺では特に歴史的環境に相応しい景観形成を図ることが必要です。

3) 市街地景観

東北新幹線七戸十和田駅の開業によって発展をみせる新市街地、中世からの歴史が息づく城下町と各集落など、その場所ごとに人々の営みがあらわれています。

■ 七戸十和田駅周辺の市街地

東北新幹線七戸十和田駅の周辺には、観光施設と商業施設、住宅地が共存する市街地が形成され、多くの人が行き交う、七戸町の玄関口らしい景観が展開しています。



七戸十和田駅

(出典：七戸町町勢要覧 2020)



しちのへ産直七彩館

(出典：七戸町町勢要覧 2020)

■ 七戸城跡周辺の市街地

かつて城下町であった七戸地区の市街地は、台地上の七戸城跡が見下ろす平地に広がっています。七戸城跡や七戸神明宮、旧七戸郵便局等の歴史的建造物や、かつての街道の線形を残す中央商店街の道路等が点在しており、まちの中に各時代の面影が残る印象的な景観が形成されています。



七戸城下の市街地



七戸神明宮



旧七戸郵便局

■ 集落等の居住地

丘陵地では、集落が点在し、それぞれで人々の日々の生活が営まれています。河川や農地等の自然的環境、神社等の歴史的環境と調和しながら、落ち着いた景観が形成されています。



集落の中の道



花松神社

市街地景観における良好な景観の形成に関する課題

- ・七戸町の玄関口である東北新幹線七戸十和田駅周辺は、来訪者の第一印象に大きく影響することから、賑わいを感じさせながら、建築物や広告物等が調和し合った秩序ある景観を形成していく必要があります。
- ・市街地や集落の立地環境に応じて、周辺の自然環境や点在する歴史資源等と調和した景観を形成していく必要があります。

◆七戸町景観のまちづくり検討委員会における七戸町の景観に関する主な意見

「七戸町景観のまちづくり検討委員会」では、七戸町の「守りたい景観」、「改善したほうが良い景観」について、委員から以下の意見が挙げられました。

表 七戸町景観のまちづくり検討委員会における七戸町の景観に関する主な意見

分類	委員会での意見
守りたい景観	■自然的な景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 田園風景のバックに八甲田連峰を望める風景 ・ のどかな放牧風景から八甲田連峰を望める風景 ・ 八幡岳が見える景色 ・ 石倉山放牧場の展望台からの眺め ・ 四季折々の風景を楽しませてくれる山林風景 ・ 綺麗に整備された農道とよく手入れされた田畑 ・ 諏訪牧場の放牧された馬が見られる通り ・ 奥羽牧場 ・ ハッピーファーム（旧盛田牧場） ・ 天王神社つつじ園 ・ つつじロード ・ 和田ダム周辺（山桜の里の地区） ・ 三階滝
	■歴史的な景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 蒼前平一里塚 ・ 史跡二ツ森貝塚の周辺 ・ 七戸中央商店街周辺の古い建造物 ・ 七戸城跡
	■人が賑わう場所や景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 柏葉公園（七戸城跡） ・ 中央公園 ・ 森林公園 ・ 東八甲田家族旅行村 ・ 東八甲田ローズカントリー ・ 町営スキー場
改善したほうが良い景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二ツ森貝塚史跡公園周辺の、遺跡の雰囲気とそぐわない建築物等 ・ 自然の風景の中に現れる人工物（ソーラー発電設備、送電線、鉄塔等）をできるだけ増やさない ・ 東北新幹線七戸十和田駅周辺は、周りの景観とそぐわない看板等が立たないようにしたい ・ 耕作放棄地 ・ 倒壊しそうな空き家

2. 景観形成の基本理念

- 基本理念 -

**八甲田連峰の緑と水の恵み、
歴史、文化との調和によって形成されてきた
七戸らしい景観を守り、創出し、後世に引き継ぎます**

七戸町は、八幡岳に水源をもつ高瀬川をはじめ多くの河川、山林等、八甲田連峰のもたらす緑と水に恵まれた潤いある自然を有し、これらは七戸町の景観の基盤となっています。

町内に在る史跡二ツ森貝塚、史跡七戸城跡、寺社等の文化財、奥州街道は歴史を物語っており、田園や牧場等は文化を感じさせ、景観を形成する要素として七戸を描き出しています。

これらの自然、歴史及び文化が調和することによって形成された七戸の景観は季節によって姿を変え、目に見える四季の移り変りを伝えます。

自然は健康で文化的な生活に欠くことはできないものです。また、文化財等は七戸の歴史、文化等を正しく理解するために欠くことのできないものであり、将来の文化の向上発展の基礎をなすものです。


自然・歴史・文化が織りなす七戸の景観は、町民の心の拠り所であるとともに、ふるさとへの愛着・誇り・懐かしさなど様々な想いを育む大切な財産であり、日々の暮らしに豊かさを実感できる社会を築くためには必要不可欠なものです。

現在及び将来の住民が生活に潤いを感じられるよう、一体となって七戸の景観を守り、個性を磨き、特色を伸ばすことで「潤いと彩りあふれる田園文化都市」にふさわしい七戸の魅力を高める景観を形成し、後世に継承する景観まちづくりをします。

3. 景観形成の方針（法第8条第3項関係）

景観形成の基本理念を踏まえて、景観形成の方針を以下に定めます。

当方針は、景観形成に関わる町民、事業者等、町、それぞれの役割の指針となるものです。

〔  : P. 15 に示す区域区分と対応しています。 〕

I 七戸町が誇る豊かな自然や美しい眺望等の自然的景観の保全

山林景観

農景観

- ・ 八甲田連峰の山林を適切に保全、維持管理するとともに、人工物は周辺の自然環境と調和するよう配慮します。
- ・ 八甲田連峰とその山麓に広がる田畑や河川がつくる田園風景への眺めにおいては、人工物が眺めを阻害しないように配慮します。
- ・ 牧場の放牧風景や奥州街道の松並木等、七戸町ならではの沿道景観を保全するとともに、場所に応じて町の花であるつつじの植栽による演出等を行います。

II 各地に残る歴史的建造物や文化財、寺社等からなる歴史的景観の保全

市街地景観

農景観

- ・ 歴史的建造物や文化財、寺社等の歴史資源を保存し、継承します。
- ・ 歴史資源の周辺においては、歴史・文化的背景を踏まえた整備等を行い、環境を阻害しない景観を形成します。

Ⅲ 集落や市街地における、落ち着いたきのある良好な景観の形成

市街地景観

農景観

- ・東北新幹線七戸十和田駅周辺は、七戸町の玄関口として、多くの人を引き寄せる賑わいある道路景観を形成するとともに、商業・業務、文化交流機能の諸施設が調和し合った秩序ある景観を形成します。
- ・七戸城下の街並みにおいては、歴史的建造物と歴史的景観が調和した景観の形成を図ります。
- ・集落や市街地においては、景観を構成する家屋等と周辺の景観が調和した、落ち着いたきのある景観の形成を図ります。
- ・集落で大切にされている寺社や巨樹・古木等の、歴史資源や自然資源を良好な景観の形成に活用します。

Ⅳ 協働のまちづくりによる良好な景観の保全及び形成

共通

- ・町民、事業者等、町が、協働のまちづくりを通じて良好な景観の形成に取り組み、七戸町の個性や魅力を守り、向上させ、住み続けたいまち、住んでみたい七戸町をつくりまします。

第3章 景観法に基づく方策

1. 区域区分の考え方

景観計画区域は七戸町全域です。本計画では、景観計画区域内を、「一般区域」と「景観形成重点区域」に区分し、それぞれの特性に応じた良好な景観の形成を図ります。

「景観形成重点区域」には、世界文化遺産登録に関連し、「史跡二ツ森貝塚の緩衝地帯」を指定します。今後、良好な景観形成に対する重要性の高まりや住民の意向などを踏まえ、追加で指定することも想定されます。

「一般区域」は景観形成重点区域以外の範囲です。一般区域では、自然環境や土地利用形態等によって、様々な景観が展開しています。七戸町の景観の特性を踏まえて、大きく3つのエリアに区分します。

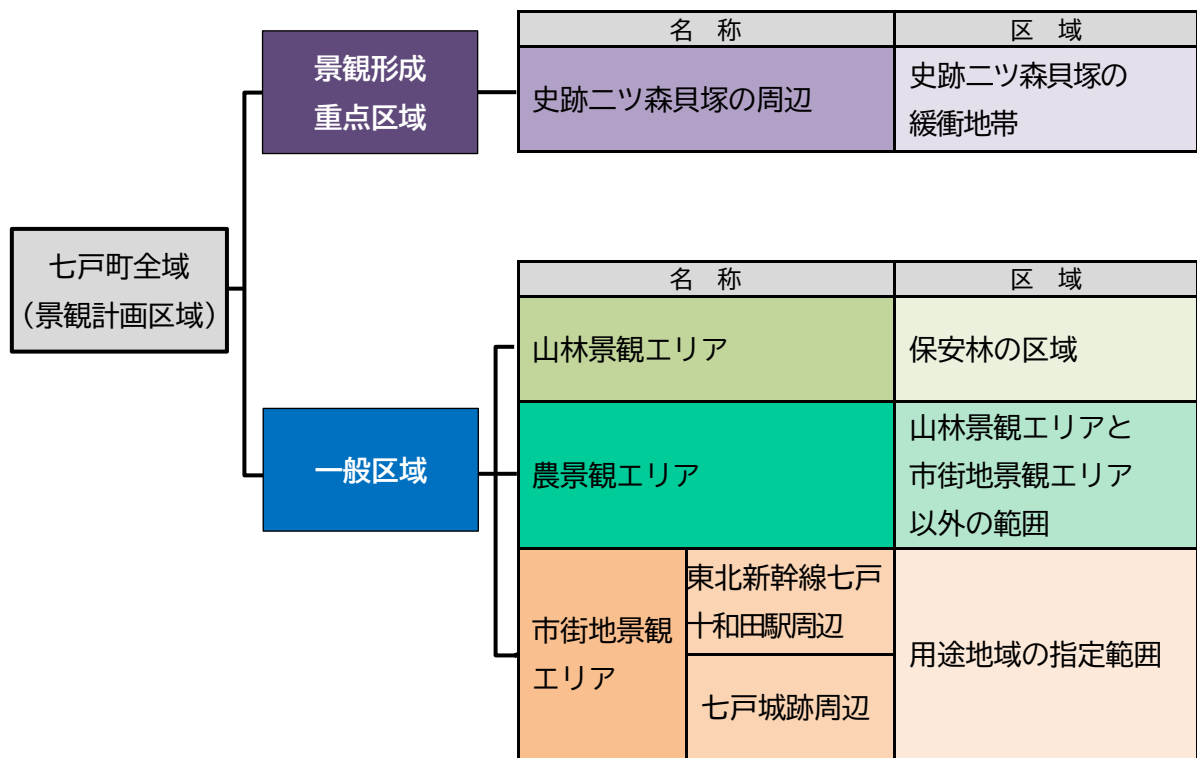


図 区域区分

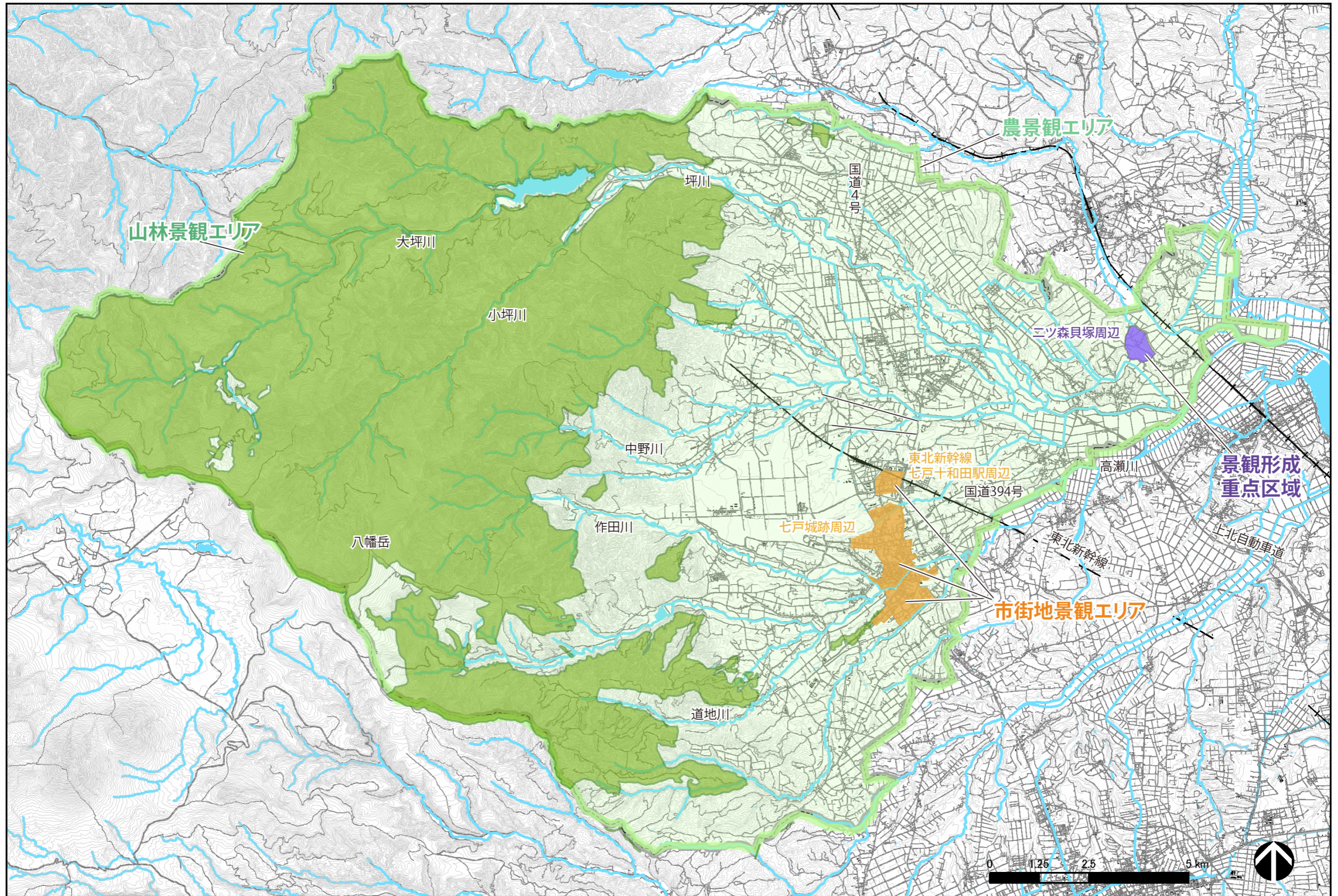


図 一般区域及び景観形成重点区域の区分

2. 良好な景観の形成に係る行為の制限に関する事項

(1) 手続の仕組み

法第8条に基づき、「届出対象行為」及び「景観形成基準」を定めます。

届出対象行為に該当する行為は、景観形成基準に適合させることが必要です。七戸町では、一般区域と景観形成重点区域において、届出対象行為と景観形成基準が異なります。

届出対象行為に該当する行為を行う場合、七戸町では、条例に基づく「事前協議」と、法に基づく「届出」の2段階の手続きが必要になります。

事前協議は、本計画で定めた行為の制限の内容を町民及び事業者等に理解していただき、法で定められた届出手続きをスムーズに行うために設けられた制度です。計画や設計が変更可能な段階で事前協議を行い、着手の30日前までに届出を行うことが必要です。

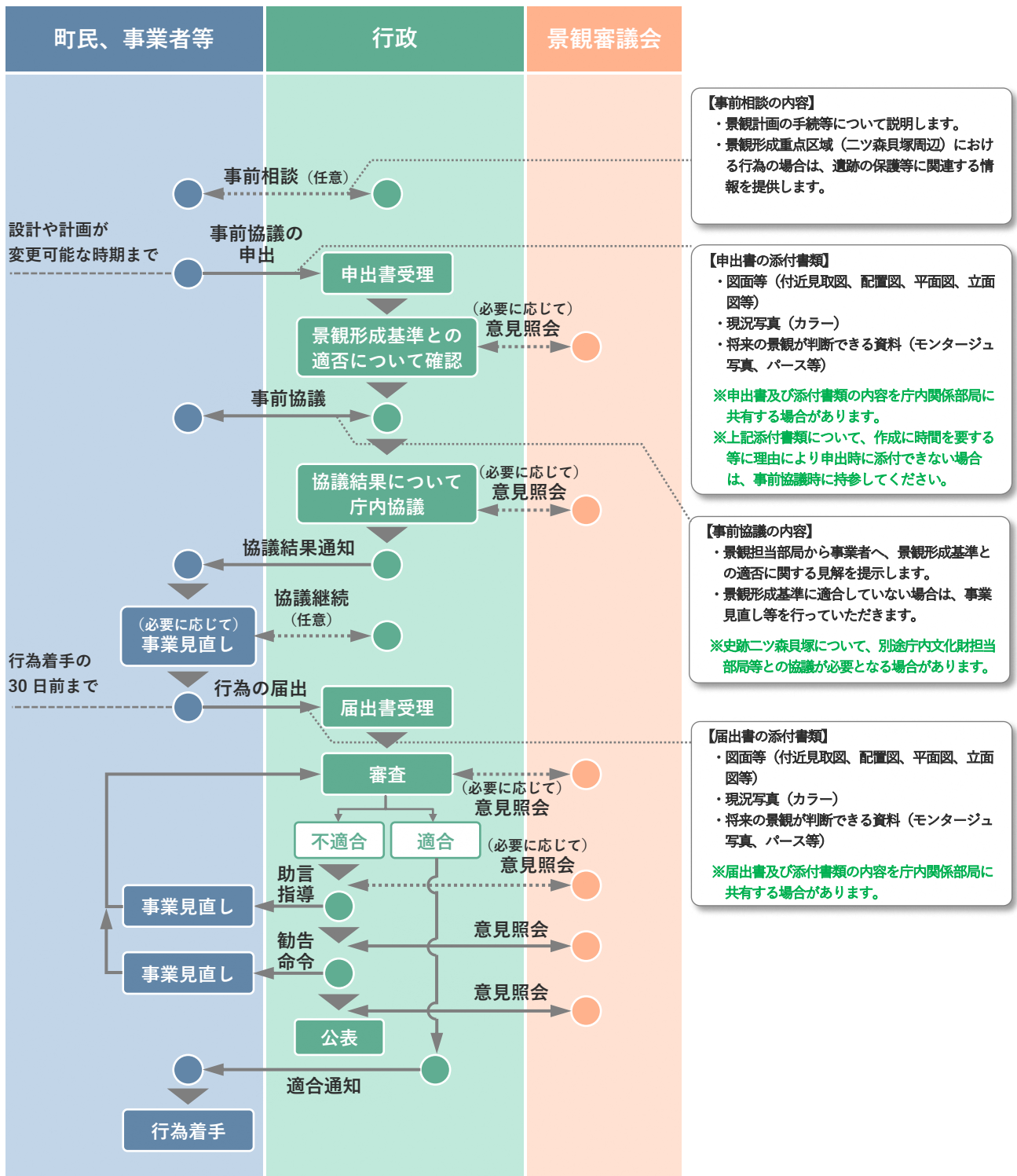


図 事前協議・届出等の流れ

(2) 一般区域

1) 良好な景観の形成に関する方針（法第8条第3項関係）

第2章「3. 景観形成の方針」が、法第8条第3項にもとづく「良好な景観の形成に関する方針」となります。

2) 良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項（法第8条第2項第2号関係）

次頁以降に一般区域における届出対象行為、景観形成基準を示します。

行為にあたっては、行為地がどのエリアに含まれているかを確認した上で、「第2章2節 景観形成の基本理念」及び「第2章第3節 景観形成の方針」に示す「七戸町の景観特性」や「景観形成の方針」を踏まえて、景観形成基準で求められる「周辺景観との調和」の具体的な方法等について検討することが必要です。

また、一般区域における行為のうち、「(3) 景観形成重点区域（史跡二ツ森貝塚の周辺）」で設定する視点場及び区域内から視認される行為については、本計画が定める「町指定の視点場及び区域からの眺めへの配慮」についての景観形成基準にも適合する必要があります。

①届出対象行為（一般区域）

行為種別		届出を要する規模
建築物	新築、増築、改築又は移転	高さ 13m 又は建築面積 1,000 m ² を超えるもの
	外観を変更することとなる修繕もしくは模様替又は色彩の変更	外観面積の 1/2 を超える外観の変更
工作物	新設、増築、改築又は移転	
	さく、塀、擁壁その他これらに類する工作物（電線路等の支持物を除く。）	高さ 5m を超えるもの
	風力発電設備	高さ 13m を超えるもの
	鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、木柱その他これらに類する工作物	
	煙突、排気塔その他これらに類する工作物	
	物見塔、電波塔その他これらに類する工作物	高さ 13m 又は築造面積 1,000 m ² を超えるもの
	広告板、広告塔その他これらに類する工作物	高さ 13m 又は表示面積の合計が 15 m ² を超えるもの
	電気供給のための電線路又は有線電気通信のための線路（これらの支持物を含む。）	高さ 20m を超えるもの
	彫像、記念碑その他これらに類する工作物	高さ 13m 又は築造面積 1,000 m ² を超えるもの
	観覧車、コースター、ウォーターシュートその他これらに類する遊戯施設	
	自動車用車庫の用に供する立体的施設	
	アスファルトプラント、コンクリートプラントその他これらに類する製造施設	
	石油、ガス、穀物、飼料その他これらに類するものの貯蔵又は処理の用に供する施設	
	汚物処理施設、ごみ焼却施設その他これらに類する処理施設	
	太陽光発電設備	
上記の外観の変更	外観に係る面積の 1/2 に相当する面積を超えるもの	
開発行為	土地の面積 3,000 m ² 、法面の高さ 5m を超えるもの	
土地の開墾、土石の採取又は鉱物の掘採		
土地の形質の変更		
木竹の植栽又は伐採		
屋外における物件の堆積	高さ 5m、土地の面積 1,000 m ² を超えるもの	
水面の埋立て又は干拓	水面の面積 3,000 m ² 、法面の高さ 5m を超えるもの	

②景観形成基準（一般区域）

対象行為	項目	景観形成基準
共通事項		<p>(1) 地域の特性を考慮し、周辺景観との調和に配慮すること。</p> <p>(2) 大規模行為の行為地（以下「行為地」という。）の選定にあたっては、自然や歴史的・文化的遺産等の地域の良い景観資源を保全するとともに、主要な視点場からの眺望の妨げにならないよう配慮すること。</p> <p>(3) 良い景観の形成に関する方針の内容にも適合するよう配慮すること。</p> <p>(4) 行為地について、良い景観の形成に関する協定がある場合は、その内容にも適合するよう配慮すること。</p>
建築物・工作物の新築・新設、増築、改築もしくは移転、外観を変更することとなる修繕もしくは模様替又は色彩の変更	位置、規模、高さ、並びに形態及び色彩その他の意匠	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のシンボルとなる山稜近傍地にあつては、主要な視点場からの稜線を切断したり、背景との調和を乱すことのないよう位置、規模及び形態意匠に配慮すること。 ・良い自然景観を有する地域では、これと調和するよう規模、形態意匠に配慮すること。 ・市街地にあつては、周辺の建築物又は工作物との連続性を考慮して、街並みと調和した高さ、位置及び形態意匠とするよう配慮すること。 ・道路等の公共空間に接する部分については、歩行者等に対する圧迫感を緩和するような位置、規模及び形態意匠するとともに、高層の建築物などにあつては、前面に公開空地を設けるなど、敷地内にゆとりある空間を創出するよう配慮すること。 ・建築物又は工作物が全体としてまとまりのある形態意匠となるよう配慮すること。 ・周辺景観と調和する色彩を用いるよう配慮すること。 ・多くの色彩やアクセント色を使用する場合は、その数、色彩相互の調和及びバランスに配慮すること。 <p><町指定の視点場及び区域からの眺めへの配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡二ツ森貝塚の視点場からの眺望（※1）を阻害しない高さとする。 ・やむを得ず、視点場から視認される場合は、周辺の景観と調和し、突出した印象を与えないような位置、規模、形態意匠、色彩とする。 ・史跡二ツ森貝塚の資産内からの眺望において視認される場合は、周辺の景観と調和し、突出した印象を与えないような位置、規模、形態意匠、色彩とする。
	素材	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺景観と調和する素材を採用するよう配慮すること。 ・可能な限り、耐久性に優れ維持管理が容易な素材や年数とともに景観の中に溶け込むような素材を採用するよう配慮すること。
	緑化	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内は、可能な限り郷土種を用いて緑化するよう配慮すること。特に、住宅地等にあつては、敷地の周囲を生け垣等により緑化するよう配慮すること。 ・敷地内に樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、保存又は移植するよう配慮すること。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの敷地に複数の建築物、工作物、屋外駐車場等を設ける場合は、施設間の調和及び施設全体と周辺景観との調和に配慮すること。 ・建築物又は工作物の移転後の跡地は、周辺景観との調和が損なわれないよう配慮すること。 ・必要に応じ、スロープや段差のない入り口の設置等により、やさしさが感じられる景観の形成に配慮すること。 ・行為地が積雪地である場合は、防雪施設、堆雪スペース等の設置を考慮するとともに、積雪期以外におけるこれらの施設と周辺景観との調和に配慮すること。

対象行為	項目	景観形成基準
開発行為 その他土地の形質 の変更	方法	・現況の地形を可能な限り活かし、長大な法面や擁壁が生じないよう努めること。やむを得ない場合は、法面を郷土種等を用いて緑化し、又は擁壁を周辺景観と調和した形態及び素材とするよう配慮すること。
	その他	・敷地内に樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、保存又は移植するよう配慮すること。
土地の開墾、土石の採取又は鉱物の掘採	方法	・採取又は掘採は整然と行い、必要に応じて郷土種等を用いた緑化や塀の設置等により周辺景観との調和に配慮すること。 ・形状を変更する土地の範囲は、必要最小限とし、土地の形質、樹木の保存に努めること。
	その他	・跡地は、速やかに郷土種等を用いて周辺の植生と調和した緑化を行うよう配慮すること。
木竹の伐採又は伐採	方法	・伐採においては、必要最小限の規模とするよう努めること。
	その他	・跡地は、速やかに郷土種等を用いて周辺の植生と調和した緑化を行うよう配慮すること。
屋外における物件の堆積	位置及び規模	・道路等の公共空間から見えにくい位置及び規模とするよう配慮すること。
	方法	・高さを可能な限り抑えるとともに、整然とした物件の堆積を行うよう配慮すること。
	その他	・道路等の公共空間から可能な限り見えないよう、敷地の周囲を郷土種等を用いた緑化や塀の設置等により遮蔽し、周辺景観との調和に配慮すること。
水面の埋立て又は干拓	方法	・埋立て又は干拓により生じる護岸、擁壁等は、周辺景観と調和するよう形態、素材等に配慮すること。
太陽光発電設備	位置及び規模	・周辺の景観と調和し、突出した印象を与えない位置・規模とすること。 ・視点場又は史跡ニツ森貝塚の資産内から視認されないような位置、規模とするよう努めること。 ・やむを得ず、視点場又は史跡ニツ森貝塚の資産内から視認される場合には、遺跡側に植栽等を設ける等、周辺の景観と調和し、突出した印象を与えないように必要な措置を行うこと。 ・道路等の公共空間から可能な限り見えないよう、敷地境界からできるだけ後退し敷地の周囲を郷土種等を用いた緑化や塀の設置等により遮蔽し、周辺の優れた景観との調和に配慮すること。
	色彩及び素材	・モジュールの色彩は、黒色又は濃紺若しくは低明度かつ低彩度とし、できるだけ反射が少なく目立たないものとする。こと。 ・フレームの色彩はモジュール部分と同等のものとする。こと。

※1：「視点場からの眺望」とは、本計画に定める特定の視点場から特定の方向への眺めを指す。視野範囲は、主対象方向を中心とする60°（左右30°ずつ）の視野範囲とする（本資料では、P.23「図 景観形成重点区域の範囲図及び視点場」に示す視点場と方向）。

(3) 景観形成重点区域（史跡二ツ森貝塚の周辺）

1) 指定区域

史跡二ツ森貝塚は、世界文化遺産への登録に関する資産の一つであり、適切に保全するため、資産の周りに「緩衝地帯」を設けています。

史跡二ツ森貝塚と緩衝地帯においては、歴史的な雰囲気が感じられる良好な景観を形成し、世界文化遺産にふさわしい周辺景観の形成を図るため、緩衝地帯と同一の区域を景観形成重点区域に定めます。

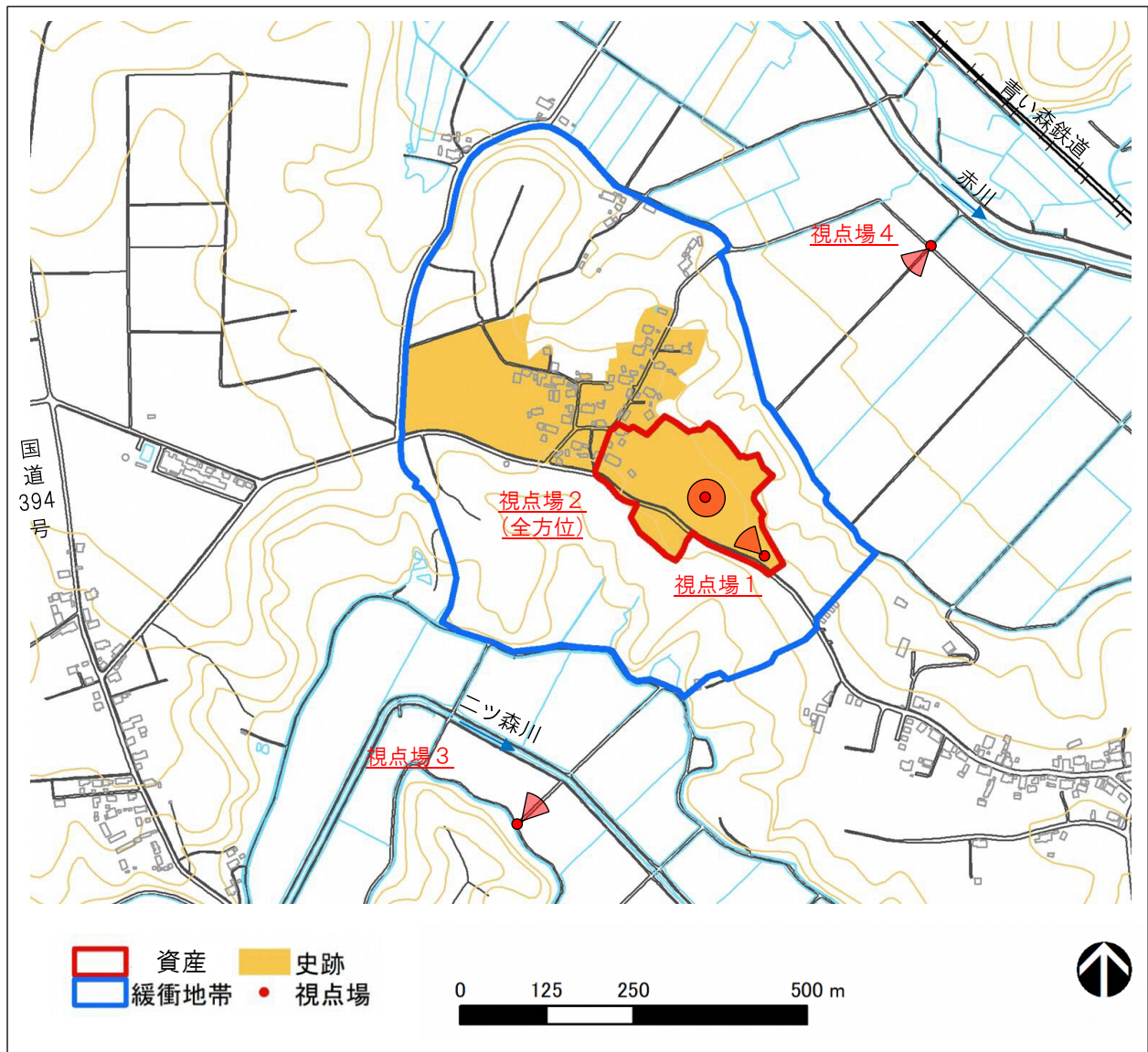


図 景観形成重点区域の範囲図及び視点場

※図中の青線の範囲を景観形成重点区域とする（緩衝地帯と同一の範囲とする）。

2) 現況

史跡二ツ森貝塚は、小川原湖西岸の標高約 30mの台地に立地し、縄文時代前期中葉から縄文時代中期末葉(紀元前 3,500 年～紀元前 2,000 年頃)の大規模な貝塚を伴う集落遺跡です。縄文時代には古小川原湾に面していたと考えられ、縄文時代前期には鹹水性の貝塚、縄文時代中期には汽水性の貝塚が形成されており、縄文海進海退の影響が伺えます。

資産内の視点場 1 及び 2 からは、当時の人々が定住していたと考えられる場所を見渡すことができます。



図 視点場 1 からの眺め



図 視点場 2 からの眺め

緩衝地帯の外に位置する視点場 3 及び 4 からは、低地から資産のある台地を見上げることができ、当時の立地環境を理解することができます。



図 視点場 3 からの眺め



図 視点場 4 からの眺め

3) 良好な景観の形成に関する方針(法第 8 条第 3 項関係)

第 2 章「3. 景観形成の方針」及び史跡二ツ森貝塚の現況を踏まえた下記の事項が、法第 8 条第 3 項に基づく景観形成重点区域(史跡二ツ森貝塚の周辺)における「良好な景観の形成に関する方針」となります。

- ・ 資産内からの眺めを保全する
- ・ 古小川原湾だった緩衝地帯周辺の低地から資産への眺めを保全する

4) 良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項 (法第8条第2項第2号関係)

景観形成重点区域 (史跡二ツ森貝塚の周辺) においては、一般区域よりもきめ細かい景観形成を図るため、小規模な行為についても届出対象とします。以降に当該区域における届出対象行為、景観形成基準を示します。

①届出対象行為 (景観形成重点区域)

行為種別		届出を要する規模
建築物	新築、増築、改築又は移転	建築面積が 10 m ² を超えるもの
	外観を変更することとなる修繕もしくは模様替又は色彩の変更	外観面積のうち 10 m ² を超える外観の変更
工作物	新設、増築、改築又は移転	
	さく、塀、擁壁その他これらに類する工作物 (電線路等の支持物を除く。)	高さ 1.5m を超えるもの
	風力発電設備	
	鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、木柱その他これらに類する工作物	高さが 5m を超えるもの
	煙突、排気塔その他これらに類する工作物	
	物見塔、電波塔その他これらに類する工作物	
	広告板、広告塔その他これらに類する工作物	
	電気供給のための電線路又は有線電気通信のための線路 (これらの支持物を含む。)	高さ 10m を超えるもの
	彫像、記念碑その他これらに類する工作物	
	観覧車、コースター、ウォーターシュートその他これらに類する遊戯施設	
	自動車用車庫の用に供する立体的施設	
	アスファルトプラント、コンクリートプラントその他これらに類する製造施設	高さが 5m を超えるもの又は築造面積が 10 m ² を超えるもの
	石油、ガス、穀物、飼料その他これらに類するものの貯蔵又は処理の用に供する施設	
	汚物処理施設、ごみ焼却施設その他これらに類する処理施設	
	太陽光発電設備	すべての行為
上記の外観の変更	外観面積のうち 10 m ² を超えるもの	
開発行為		
土地の開墾、土石の採取又は鉱物の掘採	法面又は擁壁の高さが 1.5m を超えるもの	
土地の形質の変更	又は開発区域面積が 300 m ² を超えるもの	
木竹の植栽又は伐採	法面の高さ 5m を超えるもの又は植栽もしくは伐採面積が 50 m ² を超えるもの	
屋外における物件の堆積	堆積の期間が 90 日を超え、かつ法面又は擁壁の高さが 1.5m を超えるもの又は土地面積が 50 m ² を超えるもの	
水面の埋立て又は干拓	水面の面積 300 m ² を超えるもの、法面の高さ 1.5m を超えるもの	

②景観形成基準（景観形成重点区域）

行為種別		景観形成基準
建築物 工作物	位置、配置	・周辺の景観と調和し、突出した印象を与えない位置・配置とすること。
	高さ	・視点場からの眺望（※1）を阻害しない高さとする事。 ・やむを得ず、視点場から視認される場合は、周辺の景観と調和し、突出した印象を与えないように必要な措置を行うこと。
	形態、意匠	・周辺の景観と調和した形態、意匠とするよう努めること。
	色彩	・屋根及び外壁等は、原則純色（※2）は用いず、周辺景観と調和した色彩とするよう努めること。 ・視点場から視認される場合は、周辺景観と調和し、突出した印象を与えないように、屋根及び外壁等は、原則として推奨色（※3）を用いるよう努めること。やむを得ず推奨色以外を用いる場合は、見付面積の20%以内とすること。
	素材	・周辺景観と調和する素材を採用するよう配慮すること。 ・屋根や外壁等に、金属やガラス等の光沢素材を用いる場合は、反射等による周辺への影響の軽減に努めること。
	敷地	・視点場から視認される場合には、遺跡側に植栽を設ける等、視認されないよう努めること。
	その他	・建築物等に付帯する設備が視点場から視認される場合には、遺跡側に植栽を設ける等、視認されないよう努めること。 ・屋外照明を設置する場合は、過剰な光が周囲に散乱しないよう努めること。 ・車庫や物置等の附属建物を設置する場合は、周辺の景観と調和した形態意匠や素材を用いるよう努めること。 ・増築や改修等の行為を行う場合は、既存部分の景観改善も行うよう努めること。
開発行為その他土地の形質の変更	方法	・現況の地形を可能な限り活かし、長大な法面や擁壁が生じないよう努めること。やむを得ない場合は、緑化等による修景に努めること。
	その他	・視点場から視認される場合には、遺跡側に植栽を設ける等、視認されないよう努めること。
土地の開墾、土石の採取又は鉱物の掘採	方法	・形状を変更する土地の範囲は、必要最小限とし、土地の形質、樹木の保存に努めること。
	その他	・跡地は、速やかに郷土種等を用いて周辺の植生と調和した緑化を行うよう配慮すること。
木竹の植栽又は伐採	方法	・伐採においては、必要最小限の規模とするよう努めること。
	その他	・跡地は、速やかに郷土種等を用いて周辺の植生と調和した緑化を行うよう配慮すること。
屋外における物件の堆積	位置及び規模	・堆積物が視点場から見えにくい位置及び規模とするよう配慮すること。
	方法	・高さを可能な限り抑えるとともに、整然とした物件の堆積を行うよう配慮すること。
	その他	・視点場から視認される場合には、遺跡側に植栽を設ける等、視認されないよう努めること。

行為種別		景観形成基準
水面の埋立て 又は干拓	方法	<ul style="list-style-type: none"> 埋立て又は干拓により生じる護岸、擁壁等は、周辺景観と調和するよう形態、素材等に配慮すること。
太陽光発電設備	位置及び規模	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の景観と調和し、突出した印象を与えない位置・規模とすること。 視点場又は史跡二ツ森貝塚の資産内から視認されないような位置、規模とするよう努めること。 やむを得ず、視点場又は史跡二ツ森貝塚の資産内から視認される場合には、遺跡側に植栽等を設ける等、周辺の景観と調和し、突出した印象を与えないように必要な措置を行うこと。 道路等の公共空間から可能な限り見えないよう、敷地境界からできるだけ後退し敷地の周囲を郷土種等を用いた緑化や塀の設置等により遮蔽し、周辺の優れた景観との調和に配慮すること。
	色彩及び素材	<ul style="list-style-type: none"> モジュールの色彩は、黒色又は濃紺若しくは低明度かつ低彩度とし、できるだけ反射が少なく目立たないものとする。 フレームの色彩はモジュール部分と同等のものとする。

※1：「視点場からの眺望」とは、本計画に定める特定の視点場から特定の方向への眺めを指す。視野範囲は、主対象方向を中心とする60°（左右30°ずつ）の視野範囲とする（本資料では、P.23「図 景観形成重点区域の範囲図及び視点場」に示す視点場と方向）。

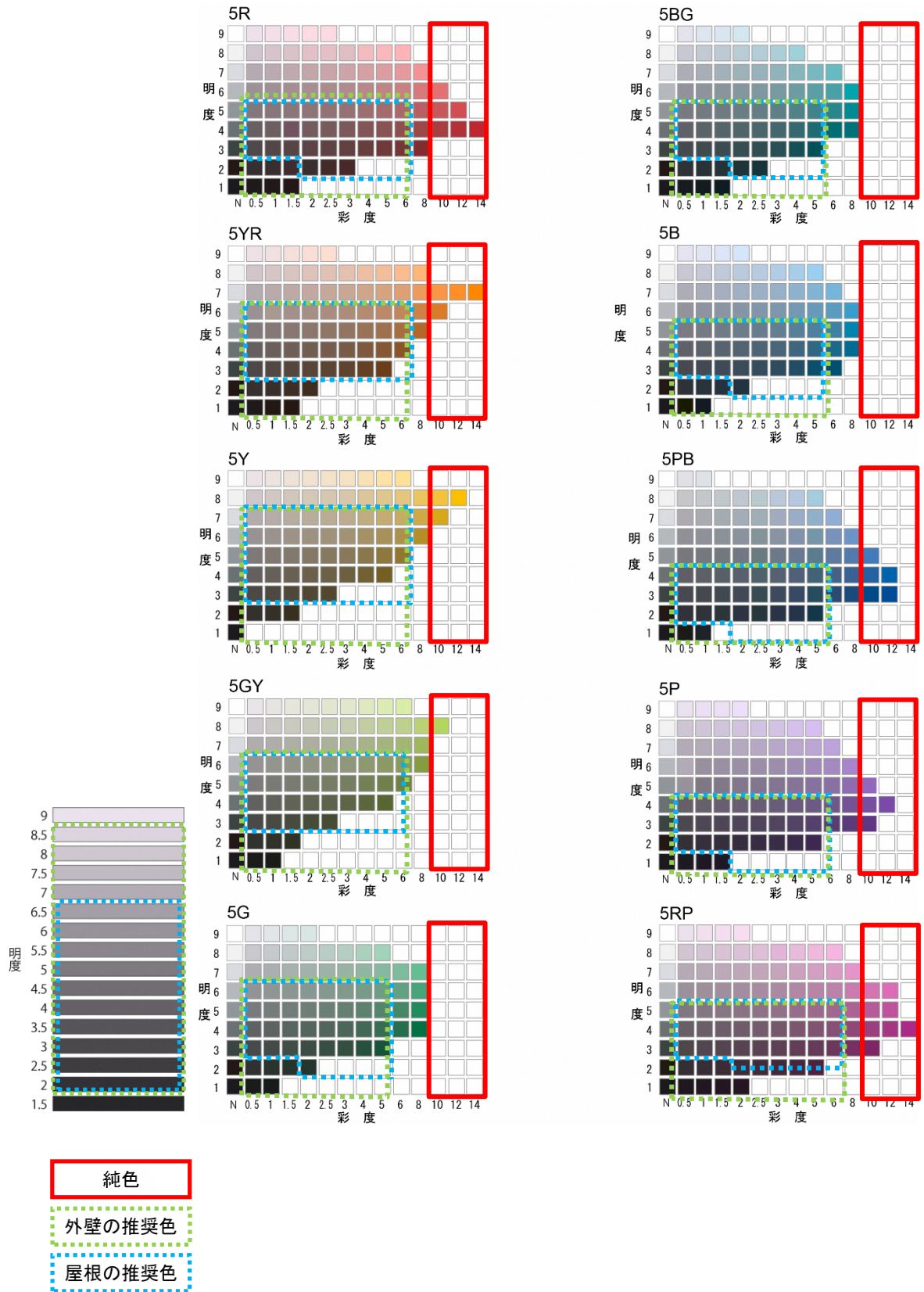
※2：純色とは、マンセル表色系（JIS Z 8721）において、各色相の最も彩度の高い色及び彩度10以上の色をいう。

※3：推奨色の範囲を、P.28に示す。

推奨色の範囲

色相	外壁		屋根	
	明度	彩度	明度	彩度
R (赤) 系	2.5 以上 6.0 未満	6.5 以下	6.0 未満	6.5 以下
	2.0 以上 2.5 未満	1.5 を超え 6.5 以下		
YR (黄赤) 系	2.5 以上 6.0 未満	6.5 以下	6.0 未満	6.5 以下
	2.0 以上 2.5 未満	1.5 を超え 6.5 以下		
GY (黄緑) 系	2.5 以上 6.0 未満	6.5 以下	6.0 未満	6.5 以下
	2.0 以上 2.5 未満	1.5 を超え 6.5 以下		
G (緑) 系	2.5 以上 6.0 未満	6.5 以下	6.0 未満	6.5 以下
	2.0 以上 2.5 未満	1.5 を超え 6.5 以下		
BG (青緑) 系	2.5 以上 6.0 未満	6.5 以下	6.0 未満	6.5 以下
	2.0 以上 2.5 未満	1.5 を超え 6.5 以下		
B (青) 系	2.5 以上 6.0 未満	6.5 以下	6.0 未満	6.5 以下
	2.0 以上 2.5 未満	1.5 を超え 6.5 以下		
PB (青紫) 系	2.5 以上 6.0 未満	6.5 以下	6.0 未満	6.5 以下
	2.0 以上 2.5 未満	1.5 を超え 6.5 以下		
P (紫系)	2.5 以上 6.0 未満	6.5 以下	6.0 未満	6.5 以下
	2.0 以上 2.5 未満	1.5 を超え 6.5 以下		
RP (赤紫) 系	2.5 以上 6.0 未満	6.5 以下	6.0 未満	6.5 以下
	2.0 以上 2.5 未満	1.5 を超え 6.5 以下		
N (無彩色)	2.0 以上 9.0 未満	—	2.0 以上 7.0 未満	—

参考図 純色及び推奨色の範囲例



3. 屋外広告物の表示及び掲出する物件の設置に関する行為の制限

(法第8条第2項第4号イ関係)

(1) 一般区域

青森県屋外広告物条例（以下、「県条例」とする）に基づいた表示等を行う必要があります。今後、特に必要となった場合は、関係者等との協議の上、七戸町の独自条例の制定を検討します。

(2) 景観形成重点区域

史跡二ツ森貝塚の周辺では、現在、屋外広告物はほとんど設置されていません。しかし、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録された場合、構成資産のひとつである史跡二ツ森貝塚とその緩衝地帯内を横断する町道の沿道等に屋外広告物の掲出圧が高まることが想定されます。

世界文化遺産にふさわしい良好な景観を形成していくためには、屋外広告物がほとんど設置されていない現状を維持していくことが必要です。また、屋外広告物が設置される場合には、県条例に基づく基準に加え、周辺景観との調和を要請する必要があります。

そこで、県条例に基づく定量的な基準に加え、同条例第10条に基づく許可基準及び法に基づく「屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項」を配慮事項として定め、屋外広告物の誘導を図ります。

-景観形成重点区域における屋外広告物の表示等の制限に関する配慮事項-

- ・屋外広告物の設置は極力避けること。
- ・必要最小限の表示面積、高さ、数量とすること。
- ・屋外広告物が遺跡内から視認される場合は、周辺景観と調和し、突出した印象を与えない位置、規模、形態、意匠、色彩とすること。

4. 景観重要建造物・樹木の指定の方針（法第8条第2項第3号関係）

（1）景観重要建造物の指定の方針

良好な景観の形成を行うにあたり、景観上重要な建造物が存在する場合には、所有者や管理者との十分な協議のもと、景観審議会の意見を聴いた上で「景観重要建造物」として以下の方針に基づき指定することを検討します。

景観重要建造物に指定されると、増築や改築、移転、除却、外観の変更をすることとなる修繕、模様替、色彩の変更等の際は町長の許可が必要となります。また、外観に係る建築基準法の制限の緩和や建造物及びその敷地に関する相続税の減免等の支援を受けることができます。

-景観重要建造物の指定の方針-

- 1) 以下のいずれかに該当し、七戸町及び地域の自然、歴史、文化等からみて、建造物の外観が景観上の特徴を有し、景観計画区域内の良好な景観の形成に重要であるもの
 - ・事業者等や来訪者を含む町民に親しまれている建造物
 - ・地域のシンボルやランドマークとなっている建造物
- 2) 道路その他の公共の場所から公衆によって容易に望見されるもの

（2）景観重要樹木の指定の方針

良好な景観の形成を行うにあたり、景観上重要な樹木が存在する場合には、所有者や管理者との十分な協議のもと、景観審議会の意見を聴いた上で「景観重要樹木」として以下の方針に基づき指定することを検討します。

景観重要樹木に指定されると、樹木の伐採及び移植等を行う際は町長の許可が必要となります。また、樹木の維持管理に対する支援を受けることができます。

-景観重要樹木の指定の方針-

- 1) 以下のいずれかに該当し、地域の自然、歴史、文化等からみて、樹木の樹容が景観上の特徴を有し、景観計画区域内の良好な景観の形成に重要であるもの
 - ・事業者等や来訪者を含む町民に親しまれている樹木
 - ・地域のシンボルやランドマークとなっている樹木
- 2) 道路その他の公共の場所から公衆によって容易に望見されるもの

5. 景観重要公共施設等の整備に関する事項（法第8条第2項第4号ロ、ハ関係）

良好な景観の形成を行うにあたり、景観上重要な公共施設（道路、河川、都市公園等のうち、良好な景観の形成に重要なもの）については、今後、管理者との十分な協議のもと、景観審議会の意見を聴いた上で「景観重要公共施設」として指定することを検討します。

指定後は良好な景観の形成を図るにあたって必要な整備を行います。

第4章 良好な景観の形成に向けた推進方策

1. 協働のまちづくり

良好な景観の形成は町民、事業者等、七戸町が以下に示すそれぞれの役割及び責務を認識し、相互に連携する協働のまちづくりによって取り組んでいくことが重要です。

(1) 町民の役割

- ・町民は、自らが良好な景観を形成する主体であることを認識し、積極的に良好な景観の形成に取り組めます。
- ・町が実施する良好な景観の形成に関する施策や取組に対し、積極的に参加、協力します。

(2) 事業者等の役割

- ・事業者等は、自らの事業活動が良好な景観の形成において重要な役割を果たすことを認識し、その事業活動の実施にあたり、積極的に良好な景観の形成に努めます。
- ・七戸町が実施する良好な景観の形成に関する施策や取組に対し、積極的に参加、協力します。

(3) 町の責務

- ・町は、本計画を運用するとともに、良好な景観の形成に関する施策を講じます。
- ・公共施設の整備等の公共事業を行う場合は、良好な景観の形成の模範を示すとともに、国、青森県が行う整備に対しては、本計画に基づき調整、協力を求めます。
- ・良好な景観の形成に関する知識の普及を図るための情報提供等に努めるとともに、良好な景観の形成に必要な支援等に努めます。

2. 計画の推進体制

良好な景観の形成は、町民、事業者等をはじめ、国、県、周辺市町村等との連携を図りながら、推進していきます。

七戸町においては、企画調整課が、本計画の運用の中心的役割を担い、庁内関係課等と本計画に基づき協議・調整を行います。七戸町景観審議会の意見・助言等、町民や事業者等の参加・協力等を得ながら、景観行政を推進していきます。

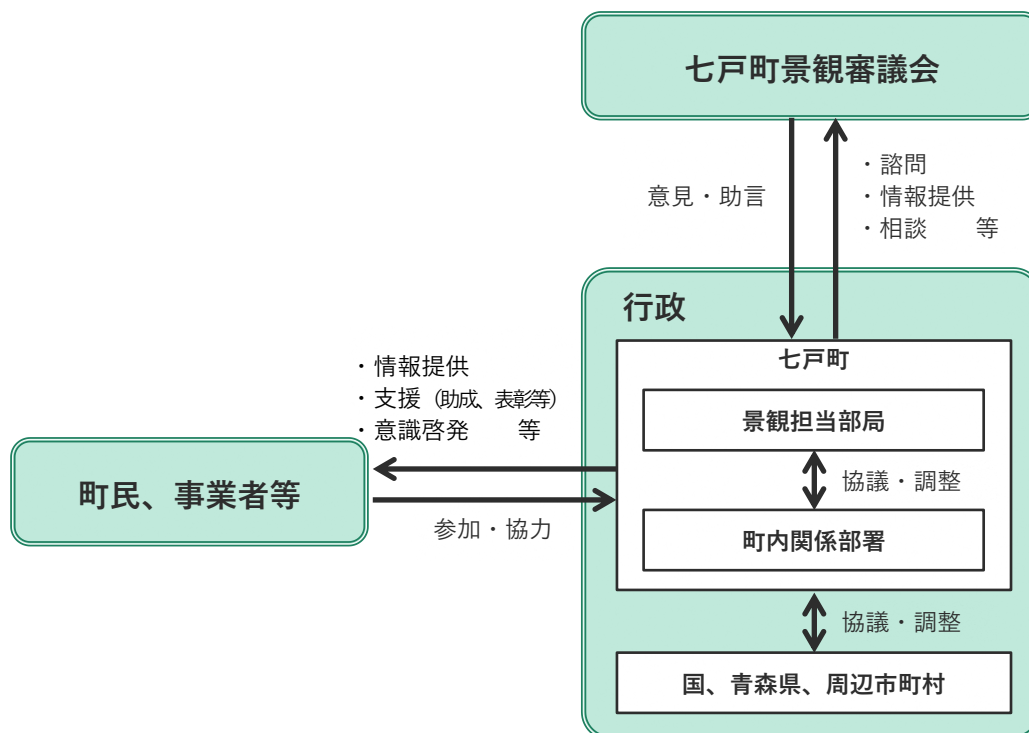


図 推進体制イメージ

七戸町景観計画

令和2年9月

発行 七戸町企画調整課

〒039-2792 青森県上北郡七戸町字森ノ上 131 番地 4

電話 : 0176-68-2940
